

商品名 セファランチン注10mg 添付文書情報

一般名	セファランチン注射液	薬価	163.00
規格	0.5% 2mL 1管	区分	(劇)
製造メーカー	メディサ新薬	販売メーカー	メディサ新薬 化研生薬
薬効	2. 個々の器官系用医薬品 29. その他の個々の器官系用医薬品 290. その他の個々の器官系用医薬品 2900. その他の個々の器官系用医薬品		

セファランチン注10mgの用法・用量

〈白血球減少症〉

通常成人には、タマサキツヅラフジ抽出アルカロイドとして1回5～10mgを1日1回静脈内に注射するか又は皮下に注射する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

〈脱毛症〉

通常成人には、タマサキツヅラフジ抽出アルカロイドとして1回10mgを1週間に2回静脈内に注射するか又は皮下に注射する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

〈滲出性中耳カタル〉

通常成人には、タマサキツヅラフジ抽出アルカロイドとして1回2～5mgを1日1回静脈内に注射するか又は皮下に注射する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

〈まむし咬傷〉

通常成人には、タマサキツヅラフジ抽出アルカロイドとして1回1～10mgを1日1回静脈内に注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

セファランチン注10mgの効能・効果

- [1] 放射線による白血球減少症。
- [2] 円形脱毛症・粧糠性脱毛症。
- [3] 滲出性中耳カタル。
- [4] まむし咬傷。

【効能又は効果に関連する注意】

〈まむし咬傷〉重症化が予想される場合には、まむし抗毒素血清を使用することが望ましい。

セファランチン注10mgの副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：

- 1) ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）：顔面潮紅、じんま疹、胸部不快感、喉頭浮腫、呼吸困難、血圧低下等があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2. その他の副作用：

- [1] 過敏症：（頻度不明）発疹、皮疹。
- [2] 消化器：（頻度不明）悪心、食欲不振。
- [3] その他：（頻度不明）注射部位の疼痛・血管痛、発熱、頭痛、硬結。

セファランチン注10mgの使用上の注意

【禁忌】

本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者。

【重要な基本的注意】

ショックの報告があるので問診を十分に行い、投与後は観察を十分に行うこと。

【合併症・既往歴等のある患者】

1. 薬物過敏症又はその既往歴のある患者。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

【授乳婦】

授乳中の女性には治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること（動物実験（ラット）で乳汁中に移行することが報告されている）。

【小児等】

- 1) 小児等を対象とした臨床試験は実施していない。
- 2) 本剤は添加剤としてベンジルアルコールを含有しているため、低出生体重児、新生児に使用する場合には十分注意すること。外国において、ベンジルアルコールの静脈内大量投与（99～234mg/kg）により、中毒症状（あえぎ呼吸、アシドーシス、痙攣等）が低出生体重児に発現したとの報告がある。
- 3) 小児に投与する場合には、観察を十分に行い、慎重に投与すること。

【高齢者】

減量するなど慎重に投与すること（一般に生理機能が低下していることが多い）。

【適用上の注意】

1. 薬剤投与時の注意：静脈内注射時に熱感、血管痛を伴うことがあるので、注入はできるだけ緩徐に行うこと（必要に応じ生理食塩液、糖液等で希釈して注入すること）。

【保管上の注意】

室温保存。



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.